

## 令和7年度長崎市歯科口腔保健推進審会 議事録

- 1 日時 令和7年12月18日(木) 13:30~14:30
- 2 場所 長崎市役所 5階第1委員会室(魚の町4-1)

### ―会議次第―

1. 開会
2. 議題
  - (1) 会長・副会長の選任について
  - (2) 第2次長崎市歯科口腔保健推進計画の進捗について
  - (3) その他
3. 閉会

### ―審議内容―

#### 議題(1) 会長・副会長の選任について

会長は長崎市歯科医師会会長 吉田 眞一 委員に決定。

副会長は長崎市医師会 橋本 清 委員に決定。

#### 議題(2) 第2次長崎市歯科口腔保健推進計画の進捗について

##### 【事務局】

- ・第2次歯科口腔保健推進計画策定の背景
- ・妊産婦・乳幼児期の歯科保健事業 について説明。

##### 【委員】

口腔機能とは「食べる」「話す」「呼吸する」の3つが基本的なものであると考えられている。口腔機能の獲得を子どもたちに求める背景として、口腔機能の低下による影響がある。加齢によるフレイルは足腰のことだけでなく、「食べこぼし」「話しにくさ」等のオーラルフレイルがあるが、元々備わっている機能がしっかりしていればこれらの衰えを低減させることができる。子どもたちに目を向けると、例えばろうそくを吹き消せない等、昔と今で口腔機能の獲得がうまくできていない子どもがいるのが現状である。幼い頃からアプローチをしていく必要があるため、口腔機能の獲得というものに力を入れていく必要がある。子どもたちの口腔機能の獲得の遅れや不十分であることについては、口腔機能発達不全症という病名で歯科医院で対応していくこととなるが、将来に向けて口腔機能を正常に獲得することを目標としている。いわゆる「お口ぼかん」が起これば、鼻呼吸ではなく

口呼吸となってしまう、フィルターの役割がなくなるためアレルギーが発症したり風邪をひきやすかったりする。コロナの影響でマスクに慣れたことも原因と考えられるが、口を閉じて鼻で呼吸することが大切であるため、整備された口腔機能のスクリーニングも活用しつつ、かかりつけ歯科医での指導管理が必要である。

【会長】

お口育て保健指導事業について長崎市からの委託により歯科医師会が実施しているが、重症例があった場合に言語聴覚士の方に紹介するルートについてお伺いしたい。

【委員】

言語聴覚士の数が少ないことに加え、成人を対象とした病院に勤める者がほとんどであり、小児に対応している言語聴覚士が少ない状況にある。現在、病院に勤めている言語聴覚士が小児に対応できるようにする動きはあるが、実現には課題が多く、そのルートがまだ確立されていないのが現状である。

【事務局】

・ 幼児期・学齢期期の歯科保健事業                      について説明。

【委員】

毎週火曜日の朝から洗口液を配布し、フッ化物洗口を実施している。準備に時間を要したり、薬品の保管に課題があったりするなど運用面での苦労はあるが、児童のむし歯が減少している成果が出ているため、この実績を職員に共有したい。なお、インフルエンザの流行時には学級閉鎖等が生じるため、その期間は実施を休止している。現在の課題としては、学校歯科健診等でむし歯が認められた場合に、すぐに歯科医を受診する児童と受診がなかなかできない児童との二極化が見られることである。このことについては、児童のむし歯予防や歯科受診に対する保護者の意識向上も重要な課題だと考えられる。

【委員】

毎週のフッ化物洗口は実施できておらず、2～3週に1回のペースで金曜日に実施している状況である。小学校と同じく、どうしても前日の準備が職員の負担となっている。人手による作業のため、ヒューマンエラーの懸念があり、現在は複数人体制で対応している。むし歯の治療勧奨については、部活動の影響で歯医者に通う機会が限定されていることが考えられ、部活動は平日と休日に各1日の休止日を設けるというガイドラインがあるものの、他の習い事との調整が入るため、歯医者への通院機会を確保するのが難しいということを現場では感じている。

【会長】

年間30回の実施はやはり、難しいのでしょうか。

【委員】

善処している。

【委員】

幼稚園は年中・年長を対象にフッ化物洗口を実施しているが、誤飲が心配というのが現場の声である。食事後の歯磨きの習慣づけは以前から徹底しているが、フッ化物洗口については誤飲の心配が実施においてネックになっている。協会からはそれでもフッ化物洗口実施を呼びかけており、半数以上の幼稚園が実施している。

【委員】

12～13 歳ごろの年齢に 7 番目の歯（12 歳臼歯）が生えてくる。生えたての永久歯に対するフッ化物は効果が特に大きいため、この時期の中学生を対象としたフッ化物洗口は非常に有効である。このことも踏まえて、12 歳臼歯を守るために、中学校でのフッ化物洗口実施について、先生方へも啓発をぜひお願いしたい。

【委員】

中核都市における小6～中3の調査をしているが、長崎市の1人当たりのう蝕保有数が小6：0.29本、中3：0.88本で、中学校において高い値を示している。小6では全国と比較してう蝕が少ないものの、中3で増加している傾向が見られる。この中学進学時のう蝕増加の原因については、別途分析していきたい。

【事務局】

・成人期の歯科保健事業                      について説明。

【委員】

禁煙サポートについて、毎年健康づくり課で募集をかけ、広報ながさき等で周知をしている。協力薬局で市民の方へ8週間のニコチンパッチをお渡しすることによりフォローしている。

【会長】

加熱式たばこの影響についてはどうか。

【委員】

一時期は、がんの抑止力になるとも言われていたが、加熱式たばこで肺気腫・肺がんのリスクは下がらないという結果が出ている。加熱式と紙と比較した場合、タールが検出されないという違いがあるが発がん性の減少は見られないため、加熱式も含めて禁煙を促すような指導をしている。

【会長】

20代の未処置むし歯、若者の受診率が低いことについて対策等アドバイスが何かあるか。

【委員】

佐世保のフッ化物洗口実施率は100%。小中学校でフッ化物洗口を実施していた場合、20代のう蝕に差があることが分かっている。長崎市でのフッ化物洗口にも期待したい。一方で、う蝕は生活習慣が関連し、10代後半からは保護者の管理からも離れるため若年層への啓発が必要。フッ化物洗口以外にも、働きかけが必要であると考えている。厚労省は国

民皆歯科健診を進めている中で、長崎市も取り組みを進めてほしい。

【事務局】

- ・高齢期・障害者等への歯科保健事業
- ・歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備     について説明。

【委員】

市の予算でやっている多職種連携の研修会で質問があったが、訪問ステーションに勤めている方から会話や食事の面で言語聴覚士会へサポートを依頼したいときはどのような形でつなげることができるのか伺いたい。連携の構築をできないか、訪問診療に行く際ケアマネージャー（介護支援専門員）にお伝えして言語聴覚士へ繋げられるものなのか、お伺いしたい。

【委員】

訪問・リハビリをするにあたっての手続きは、介護保険サービスではケアマネを通して訪問に対応できる言語聴覚士を探し、つなげる形が多い。自身も通所リハに勤めており、利用者さんで必要な場合はケアマネを通して歯科の訪問診療につなげているため、歯科から言語聴覚士の介入も同様と考える。介護保険の場合はケアマネージャーの計画に沿って対応する必要があるため、まずはケアマネに相談していただきたい。ただ、言語聴覚士の数が少ないため探すのが難しいのが現状である。

【委員】

訪問で言語聴覚士につなげることに關しては、訪問リハに言語聴覚士がいることが少なかったり、半年程度空きがなかったりするという状況があり、なかなか難しいのが実情である。現在は、デイサービスなどの口腔機能向上加算で対応したり、言語聴覚士がいるデイケアを紹介したりして、言語聴覚士と連携を取っている。

【会長】

障害者歯科健診が今年度から始まり、実績が9人だった。このことについてご意見があるか。

【委員】

周知を頑張ったが、受診者が1桁と少なかった。情報弱者である障害者の方々に通い慣れたハートセンターで受診をしてもらいたいという想いがある中で、今回の二次元コードまたはHPからインターネットを利用した申し込み方法は困難に近いと、本会からも意見があった。次年度以降も実施できるのであれば、アナログな方法で募集する必要があると考える。

【委員】

児童発達支援センターを運営しているが、センターでも発達障害の子どもが多い。障害のレベルが軽度であれば学童でも受け入れられるが、高くなるほど事業所で受け入れを行うこととなる。事業所における発達障害の子ども達において、今回のハートセンターでの実施を「やっていることを知らない」場合も多い。良い事業もある中で広報のありかたを

見直す必要があるのではないか。いろんな方が情報を得るために、センターをうまく利用していただければと思う。

【委員】

ケアマネさんの話が聞けて良かった。施設の方では、自身で歯磨きをできる人もいるが、入れ歯の方がほとんどなので以前から職員が食事後の口腔ケアを行っている。今は加算というよりも基本しなければならないという認識で、年に2回の歯科医師による研修のもと口腔ケアを行っている。高齢者の方はなかなか外に出ないので、在宅での管理が心配であるが、ケアマネさんが指導を頑張ってくれていると感じる。

【委員】

歯科衛生士会では、歯つらつ健康教室や短期集中訪問サービスを実施している。高齢者の方の場合、以前はお口の中をきれいする口腔ケアに注目があったが、今は口腔機能の向上・維持についても関心が向いている。研修会の中でも、口腔ケアに併せたりハビリについての希望も多い。高齢者に関して口腔に関心が向いているように感じる。

議題（2）その他

【会長】

口腔がん検診について、昨年度長崎市内の歯科医院で口腔がん・口腔粘膜疾患健診を実施した。1507名が受診し、24名の口腔粘膜疾患、3名の悪性腫瘍の早期発見できた。14年ぶりの実施であったが、定期的に実施していきたいと考えている。

【委員】

むし歯・歯周病・口腔機能について市民の方に啓発をしていきたい中で、毎年6月に歯っぴいスマイルフェスティバルを実施している。次年度も去年と同様にかもめ広場で実施予定。加えて本会では、来年8月1日にブリックホールにて、睡眠と歯科の関係について講師の先生によるシンポジウム形式での市民フォーラムの実施を予定している。テーマは「すべての世代に快眠を～医科と歯科の支える健康な未来～」。本日の話にもあったが我々も周知の面で尽力する必要があるが、皆様にもご協力いただけると有難い。

以上。